

- ・本日配布の会報に掲載しておりますが、あらためて9月1日に行われました委員長会議の報告を致します。

## プログラム

### 『体験交流型観光による地域振興』



一般社団法人南紀州交流公社

理事長 奥山 沢美 様 理事 久保 道男 様

#### 1. 体験交流型観光が求められている背景

- ・日本の社会情勢

世界でも豊かなはずの日本は、フリーター、ニート、自殺者、凶悪な殺人事件、また学校ではいじめ、不登校、自殺など教育現場でも問題となってきた。本当の豊かさとは何か問われている。それは「心の豊かさ」であり今までの物質文化の発展を認めつつも精神文化の更なる高揚をめざすことである。精神文化とは「人間が人間らしく生きる」すなわち人間と自然とのかかわり、人と人とかかわりを大切にすることである。人々が真の豊かさは「心の豊かさ」であると気付いた今、その豊かな自然と素朴で人情厚い人々こそが掛け替えのない地域資源である。つまり地域の人々もつ教育力（生業・技・匠・趣味・生き様）を体験交流の素材とすることである。

#### 2. 文部科学省の新施策のひとつとして

道徳教育や体験学習を通じて問題を未然に除去すると発表された。つまり、心の教育に力を入れるということである。

#### 3. 求められている「ほんもの体験学習」とは

＝ほんもの体験には、ほんものの感動がある＝

- ・体験の場がわざわざ設けられたものではなく、ありのままの自然や暮らしの営みの中で行われなければならない。
- ・プログラムは、その土地の自然、生活、産業、歴史、文化に根ざしたものでなくてはならない。
- ・体験型観光、体験学習のねらいを見誤ってはいけない。体験が目的ではなく、人と人との交流からお互いが高まることである。それが心の豊かさを求める旅であり、教育の向う方向でもある。

#### 4. 農林漁家民泊の推進について

- ・農山漁村での暮らしは大変である。しかしそこには豊かな自然があり、心豊かな田舎の暮らしがある。
- ・農家や漁家に滞在し、作業を手伝い、家のまわりで採れた野菜や山菜、川や海で獲れた魚などの地

域食材で作る田舎料理を学ぶ。

- ・祖父母の年代とコミュニケーションが生まれ、家庭の団欒を味わう。
- ・生活の全く異なる体験をすることから地域の人々の生き様や、食生産を担う農山漁村の役割を理解し自らの生活や家庭や生き方を省みる機会となしてほしい。
- ・お客様ではなく家族の一員として迎え、親子や家族という当たり前にあるべき人と人との関係を再確認し、家族の温もりや絆を胸に刻みこんでほしい。
- ・食生産の現場である田舎は食育、食農教育、漁食振興の現場である。
- ・理念ある民泊の教育効果は大きく、誘客の鍵となる。

#### 5. 家業体験（生活体験）プログラムの推進

- ・体験は準備から片付けまで全て参加者と共に行う。
- ・体験者はその体験だけでなく、その背景にある歴史やいわれ、苦労など全体の流れの中で自分がどの部分を体験しているのかなど田舎暮らしを体と心で感じてもらう。
- ・いい加減な作業の仕方を見受けたら注意してやり直しをさせるなど体験そのものが農村に生きる者の生業であることを体験を通じて伝える。
- ・作業の目的をしっかりとつかまえて 収穫の喜び、達成感をもたせる。
- ・汗を流して働き、協力することの大切さを学ばせたい。

以上の理念のもと体験プログラムに関わり指導するのは、地域に暮らす人々であり、体験を通じた交流は様々な感動を呼びお互いに心高まる機会となるよう願っている。この事業の担い手は高齢者が多く、生きがいにもなり、意欲と能力があれば何歳であっても国を支える側にまわれるのである。

地域にもたらす影響は、地域外貨獲得と地域内消費による経済効果と、受け手側が元気をいただき、やりがい、生き甲斐、誇りが生まれるなど精神効果があり、地域の活性化から地位振興につなげていきたい。修学旅行、体験学習、企業研修などに地域が一丸となり教育効果の高い体験プログラムを提供し、旅の目的づくりを更に進め未来へとつなげる小さな町の挑戦です。

#### ロータリーゴルフ 9月例会成績

9月9日(参加20名)

白浜GC

順位	氏名	グロス	ハンディ	ネット
優勝	中松 村夫	86	16	70
2位	岩本 浩典	86	16	70
3位	伊賀 久記	97	26	71

※アピソ賞 No.3-瀬戸、廣本桃 No.18-津村、長井  
※次回は10月14日(日) スタート9:31 白浜ビーチGC

